

## 小中学校の普通教室へのクーラー設置に国の財政支援を求める意見書

学校が週5日制になり、低学年でも5、6時間目までの授業が増え、30度から40度にも及ぶ暑い教室での授業は子どもの大きな負担となっている。また、都市部では光化学スモッグで窓も開けられない状況がある。学ぶ意欲ばかりか、健康にもかかわる普通教室へのクーラー設置は切実な要求となっている。

ところが、公立小中学校で、現在冷房化の補助対象となっているのは、職員室や保健室、音楽室、コンピューター室などの特別教室だけとなっていた。

父母と学校関係者などの切実な要求を受けて文部科学省は、原則として公立の小中学校の普通教室を冷房化する方針を決め、2003年度からの10年計画で、来年度予算概算要求に空調設備の整備費100億円を盛り込むことになった。

さらに、文部科学省は当初、公立小中学校の新築（国の補助率2分の1）、増改築（同3分の1）に限り冷房化を進める方向で検討していたが、新增改築以外の小中学校も整備対象とし、3分の1を国が補助することになった。

しかしそれでも、冷房化を希望しない地域を除きすべての小中学校の普通教室が冷房化されるのは、2003年度から10年後である。

よって、本市議会は、国庫補助率を少なくとも2分の1に引き上げるなど整備予算の大幅な増額を求めるものである。

上記、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

平成14年 9月26日

三鷹市議会議長 吉野博明